

7月4日（野球部壮行式）

ユニフォームが泥だらけになるまで

私は高校の教員になって31年目になりますが、野球部の壮行会に保護者の方々が参加され、選手たちの激励をしてくださるのは初めての経験です。本当にありがとうございます。子どもたちも大いに元気をいただいていることとおもいます。

さて、みなさんは羽生善治さんという方を知っていますか。国民栄誉賞も受賞されたプロの棋士です。先月の対局で勝って、通算勝利数を歴代最多の1434勝目を達成されました。後世まで語り継がれる将棋界のスターです。

その羽生さんが、トップレベルの将棋についてこう話しているらしいです。

たとえばプロ棋士 100 人にある局面を示して「次にどんな手を指しますか。3つ選んでください」と言うと、その三つはほぼ一致します。その後の読みも、だいたいみんな同じ想像をします。

「自分が考えつく手は相手にも見えているはずだ」ともおっしゃっています。次の1手もその後の読みもだいたい同じことを考えるプロの棋士同士が対局して、では一体どこで勝敗が決まるのだろかと思えます。

頭脳戦ともいえる将棋の勝敗に影響しているのは、実はこういうことではないかとおっしゃっています。

実は勝負を決めているのは、知識でも頭の回転でもなくて…最後は「負けたくない」と思う気合いや、努力しても勝ちに恵まれないときにも持ちこたえる根性とか、今の時代にはまったく評価されない泥臭い能力が大きいのではないかと思います

今ではあまり表だって言われたい気合い、根性、泥臭さといった精神論を説かれています。同じように、野球の勝敗は技術のレベルだけで勝敗が決まるのではなく、「絶対打ってやるぞ」とか、「打てるもんなら打てしろ」という相手投手や相手バッターを圧倒するほどの気合いとか、ボールに食らいついたり、追いかける泥臭さが勝敗を決めるのだと思います。野手の間をきれいに抜けていくクリーンヒットもヒットならば、気合いがバットに乗り移って野手の間に落ちるポテンヒットもヒットです。

今、口加高校には風が吹いています。令和元年の初めての甲子園予選のしかも開幕戦を引き当てたのは必然だと思いました。長崎県の高校野球界の新しい時代の幕開けは口加高校の勝利と口加高校の校歌から始まるものと確信しています。そして昨年3回戦で敗れた長崎商業と2回戦で対戦するのも必然です。第一シードも撃破してオレンジ旋風を巻き起こしてください。9回のゲームセットの時はユニフォームが泥だらけになるまで、気合いと根性と泥臭さでグラウンド、ベンチ、スタンドが一体となってチーム一丸戦ってください。顔晴ろう！口加！！